

令和7年3月21日

関係各位

みどりの学び舎
世田谷区立上北沢小学校
校長 三浦 健仁

令和6年度自己評価報告書及び改善方策

前年度の改善方策について実行した改善結果

<自己評価報告書を作成するに当たって>

・学校評価アンケートの項目にそって、「児童のアンケート調査」「保護者のアンケート調査」「地域のアンケート調査」「教職員の自己評価」から、次年度の改善点の方向性を示しています。

- 授業では考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある。 (89. 5%)
- 学校行事は楽しい。 (85. 1%)
- 先生に注意されたことは、理解できる。 (82. 5%)
- 区立中学校に関する情報が提供されている。 (28. 7%)
- すすんで読書している。 (46. 4%)
- あいさつや返事を自分から大きな声ではっきりとしている (58%)

<考察と改善策>

○授業についても学校行事についても、児童が充実感のもてる取組を行えたことがわかる。学習に関しては、令和6年度から高学年において教科担任制を取り入れるとともに、「個別最適な学びの実現」を主題にして校内研究を進めてきた効果が表れたものと考えられる。また、生活指導に関してはきまりを守れていなかったり集団生活の中で適切な言動が行えていなかったりしたときに、その行動だけでなく理由も含めて丁寧に指導を重ねてきたことが要因として考えられる。

●区立中学校の情報については学び舎での生徒会・児童会でのオンライン交流を実施しているが、そのほかの形での情報発信の形を模索していく。読書に関してはこれまで行ってきた朝読書・読み聞かせボランティア「おはなしたんぽぽ」による読み聞かせ・多読賞などの取り組みに加え、図書委員会による読書週間での取り組みを行ったが、さらに読書が多くなるような工夫を取り入れていく。あいさつに関しては、たてわり班による毎月のあいさつ運動など力を入れて取り組んできたことであるが、児童の意識がさらに高まるよう取り組んでいく。

(2) 保護者のアンケートの評価結果 ○は肯定的評価が高いもの ●は低いもの

- 学校行事は子供にとって達成感がある。 (94. 9%)
- 学校行事は子供にとって楽しい。 (94. 4%)
- 本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。 (92. 8%)
- 「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている。 (35. 6%)
- 私は、学校行事、PTAや地域主催の行事にすすんで協力している。 (56. 5%)
- 子供は、家庭で自主的に学習している。 (59. 3%)

<考察と改善策>

○学校行事について高い肯定的評価が出ているのは、学校を信頼していただいている証と嬉しく感じる。子どもたちが自分たちの考えを生かして取り組めるような学校行事の運営に取り組んだことが大きな要因として考えらえる。安全に関する指導については、学校公開で避難訓練を実施したことや保護者の方に参加して抱くセーフティ教室を実施したことが、ご理解いただけた要因と考える。

●学び舎では回答で令和6年度に幼稚園・保育園との交流をこれまで以上に行ってきましたが、実施時期がアンケート実施時期よりも後になったことが大きい。PTAの参加については、学校行事やPTA活動、地域行事への参加について今後も役員と模索していく。子供の家庭での自主学習であるが、タブレット端末を利用した自主学習の方法など、保護者会などを通して周知していく。また、発達段階に応じて、自主家庭学習を宿題として出していくことも考えていく。

(3) 地域アンケートの評価結果 ○は肯定的評価が高いもの ●は低いもの

- 学校行事の内容は充実している。 (100%)
- 学校からのお知らせ（学校だより）などにより学校の様子が分かる (100%)
- 事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。 (100%)
- 学校の重点目標が明確である (100%)
- 学校は安心・安全な学校づくりを進めている。 (100%)
- 本校の子どもたちは、相手に伝わるようにあいさつをしている。 (60%)

<考察と改善策>

○学校行事の内容の充実については、地域の方々にも行事をご参観いただいたことが大きな要因である。また、学校だよりも各担当から様子をお伝えすることで、皆さんに学校のことをご理解いただいたものと考える。令和6年度は多くの場面で保護者・地域の方々にお力添えを頂き、深く感謝している。お力添えを頂く方々にこれからもわかりやすくご案内ができるようにしていくとともに、交通安全教室や地域清掃など、子どもたちの安心・安全につながる取り組みを継続していく。学校の重点目標については、校長の学校経営方針に重点目標を項目立てたことが要因と考える。

●学校経営方針の柱の一つである「あいさつ」がより一層しっかりとしたものになっていくよう、子どもたちに意識付けしていく。

(4) 教職員アンケートの評価結果 ○は肯定的評価が高いもの ●は低いもの

- 感染症等の予防・対応が適切に行われている。(80%)
- 日常的な施設・設備の点検や管理が適切に行われている。(77.4%)
- なかよしタイムを通して異学年との交流が深まっている。(76.7%)
- ことばの力を高める言語活動を取り入れた授業が行われている。(53.3%)
- 地域の行事等に教職員が積極的に参加している。(56.7%)
- 道徳的心情、判断力、実践力が育っている。(56.7%)

<考察と改善策>

○令和6年度は、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症、流行性胃腸炎など様々な感染症の罹患が児童に出たが、その都度、手洗いや前向き給食などの対応をしてきた。嘔吐が校内であった場合には、教職員が連携して速やかに周りの児童への感染を防ぐ対応を行ってきた。また、施設・設備の安全点検も毎月実施するとともに、常時、安全面で気になることを管理職に報告するようにしてきた。次年度以降も継続して取り組んでいく。

なかよしタイムも工夫して取り組んでいく。

●校内研究の主題を「個別最適な学びの実現」として取り組んできたが、対話的な学びへの意識を高められなかった。次年度は対話的な学びも焦点を当てて取り組んでいく。

地域行事については働き方改革の一環として、担当学年児童の関わるものについて参加を促してきた。

特別な教科 道徳は学年間で授業を受け持つ等、工夫して取り組んできているが、廊下を走ってしまったりタブレットの使用目的が不適切であったりと、規範意識の向上とその実践につながっていない子どもも見られる。道徳的心情、判断力、実践力が高められるよう、引き続き子供たちに働きかけていく。

(5) 前年度の改善方策について実行した改善結果

○学校運営委員会の活動周知について

年間6回開催している学校運営委員会の活動報告を、開催終了後1週間以内に発行したことにより

「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。」75% (R5) → 100% (R6) に増加した。